山宮神社春祭に伴う芸能(カギヒキ,正月踊)

【所 在 地】志布志市志布志町安楽 1519 - 2(正月踊保存会)

【種 別】県指定無形民俗文化財

【指定年月日】昭和37年10月24日



現在は新暦2月第2土曜日に山宮神社の春祭りが行われ、その日のうちに山宮神社の御輿は2キロほどはなれた安楽神社に下る。翌日安楽神社で打植祭が行われる。

この二つの祭りは重複した行事がないことから,2つの祭礼が連続したものと見られる。 両者とも県内に多く見られる春祭りで,その年の豊作を祈願する祈年祭である。

山宮神社の春祭には、「お田植」といって、稲に似せた竹串を境内に植える行事や浜下りがある。安楽神社では境内を田にみたてて、木鍬で耕す「田打」、牛面を被ってモガを引く「牛使い」、種籾をまく「種まき」がある。拝殿の中で、神職が、モロムギの枝をもって舞う「田植舞」は、他に例をみないものである。境内では青壮年たちが、田を打つカギで「カギヒキ」をする。青壮年たちが、頭巾で覆面し、紋付羽織にモモヒキ姿で「正月踊り」とも「手拍子」ともいう、風流系の踊りをすることも有名である。

カギヒキや田植舞,田の神夫婦,正月踊りなど他にみられぬ複雑な要素を内容としているところに特色がある。